



# 校外学習「静岡大学へ行こう！」



## <1年生> 「木のおもちゃづくり」

本校の校長を務める松永先生のもとで、木のおもちゃ作りを通して、動く原理の面白さ、木の持つ質感の良さなどに気づき、物づくりへの興味関心を広げたり、探求心をもったりすることができました。



## <2年生> 「屏風と和菓子を通し日本美術を楽しむ」

美術科の高橋先生と家庭科の村上先生、静岡県立美術館の学芸員さんのもとで、屏風の鑑賞や抹茶と和菓子の体験を楽しむことを通し、日本美術への関心を高めました。



このときの様子は4月23日の静岡新聞(朝刊)にも掲載され、本校の特色ある教育活動として紹介されました。

新聞記事にあるように、生徒たちは屏風から季節の移り変わりや時代背景などを読み取り、「休日に家族と美術館に行ってみたい。」と自分の生活と学習を結び付けている様子がありました。

### 屏風、和菓子 伝統文化学ぶ

静大教育学部、県立美術館が連携



イを壊した練り切りが、無粋な年の油灰筆で描かれた。生徒は「おもしろい」と感じ、練り切りは「甘い」「おいしい」と笑顔で楽しんだ。かきつけてすごかつ(夏真部・山田博樹)

生徒は県立美術館学芸員から屏風の用途などの説明を聞いた後、江戸時代に制作された狩野永徳の「四季耕作図屏風」の原寸大レプリカを鑑賞した。屏風を間近で見ると、江戸時代の暮らしや当時の文化を学んだ。

特別支援学校生が授業  
静岡大付属特別支援学校高部分校の生徒は、同大教育学部、県立美術館と連携し、屏風づくりを通して和菓子を通し日本美術を学ぶ授業を両市駿河区の同大静岡キャンパスで聞いた。高部校の2年生も日本人が日本の伝統文化を学んだ。

＜3年生＞ 「様々な身体の動き、健康促進の運動」

体育科の野津先生のもとで、健康促進の運動や、様々な体の動きを教わることで、運動の楽しさを味わうことができました。卒業後は働く生活のなか、体力維持のために自主的に運動に取り組むことが大切と言われています。仲間と楽しく身体を動かすことで、継続して運動することの良さを感じ取っている様子でした。



＜3学年合同＞ 「鑑賞しよう 伝統的な和楽器に触れよう」

午後には3学年合同で音楽科の長谷川先生のもとで、学生の生演奏を鑑賞したり、琴やささらなどの和楽器に触れる体験をしました。最後には長谷川先生の胡弓(三味線に似た楽器で馬の尾の毛を用いた弓で演奏する)による「荒城の月」を鑑賞し、和楽器の幅広い表現を味わうことができました。

